

国家主導の「開発」と国民の「福祉」をめぐる 政治から読み解く2013年マレーシア総選挙

鈴木 絢女 福岡女子大学

私の報告では、まず半島部の下院選挙結果を概観します。これについては、他の先生方がより包括的な見解を発表されると思いますので、私はポイントとして興味深い部分をかいつまんでお話しすることにとどめたいと思います。

二つ目に、私は今回の選挙期間中に、スランゴール州とクアラルンプール、そしてジョホール州のジョホールバル (Johor Baru) でチェラマ (ceramah) に行きました。そこから得た知見を少し紹介します。とりわけ、現場における争点がなんだったのかについて、フィールドワークの結果からつかみ取りたいと考えています。

三つ目に、時間軸を10年くらい延ばしたうえで、今回の総選挙を捉え直してみようと思います。

■ 得票率で野党 (PR) を下回るも 前回同様の議席を獲得した与党 (BN)

資料1の選挙結果は、すべて半島部に限定されています。有権者は前回の選挙から22.3%増えて1,125万人です。野党の方の話によると、22.3%増えた約半分は与党連合BN (バリサン・ナショナル) と野党連合PR (パカタン・ラヤット) の双方の政党を通じた登録だったそうです。残りの40%もしくは50%が——このあたりは曖昧な数字だったのですが、自主登録で、自ら選挙管理委員会のホームページで登録したり郵便物で登録した人たちです。自主登録者のほとんどはPRの支持者ではないかと見られています。

投票率は、「史上もっとも重要な選挙」と言われたこともあり、85.4%と高くなりました。前回と比べると

7.8%増です。そして、半島部の166選挙区のすべてで投票が行なわれました。前回の選挙では一つの選挙区でBN側に無投票当選があったのですが、今回はPRがすべての選挙区に候補者を立てることができたということです。

結果を見ると、これも半島部に限ったことですが、議席数としては前回も今回も変わりません。しかし、得票率が変わっています。とりわけ半島部においては、より多くの議席をとったはずのBNの得票率が45.8%で、PRは53.3%でした。

■ 1票が重い選挙区で勝ち、 接戦を制したことで議席数を稼いだBN

なぜこのような得票率にもかかわらずBNが勝ったのかを考えると、まず選挙区割りが増えたと考えられます。プトラジャヤ (Putrajaya) の15,798人の選挙区とスランゴール州の144,369人の選挙区とのあいだには、じつに9倍から10倍ほどの票の重みの格差があります。

資料2は、166区ある半島部の選挙区をざっくりと五つに割ったものです。こうして見ていただくと、1票が重い、つまり有権者数が少ない選挙区において、BNが高い得票率かつ高い議席獲得数を記録したことがわかりいただけると思います。

これから研究しなければならないのですが、とくに有権者数が少ない選挙区には、いわゆる「ゲリマンダリング」といって、BNの支持が強い地域を取り出して一つの選挙区として独立させてきたところが相当あります。そういう意味では、過去にそのような操作をしたことの遺産で、今回、獲得議席数においてBNがPRに優越できたと言えるのではないかと思います。他方でPRを見ると、主に1票の重みが軽い選挙区で勝っています。

もう一つ、BNがなぜ獲得議席数においてPRに優越したのかを考えるうえで、得票差5%未満で勝った議席の数が興味深いと思いました。資料3は州別にまとめたもので、もっとも重要なのは一番下の行です。

資料1 半島部の選挙結果の概観 (サバ、サラワクをのぞく)

- 有権者……1,125万人 (22.3%増)
(40%政党による登録 / 40%自主登録)
- 投票率……85.4% (7.8%増)
- 166選挙区すべてで投票

	BN (国民戦線)		PR (人民協約)	
	議席数	得票率	議席数	得票率
GE13	86	45.8%	80	53.3%
GE12	86	49.4%	80	49.6%

資料2 BNを利する選挙区割り

	有権者数	BN(国民戦線)		PR(人民協約)		議席数 合計
		議席数	得票率	議席数	得票率	
1	15798~45592	33	62.3%	0	40.4%	33
2	46062~59344	25	51.6%	8	48.1%	33
3	59470~72122	14	44.1%	19	54.1%	33
4	72533~86914	7	41.9%	26	57.9%	33
5	87747~144369	7	41.8%	27	56.9%	34
計		86	45.8%	80	53.3%	166

資料3 多数の辛勝選挙区

	BN(国民戦線)		PR(人民協約)	
	議席数	得票差 <5%	議席数	得票差 <5%
ブルリス	3	-	0	-
クダ	10	3	5	1
クランタン	5	2	9	3
トレンガヌ	4	-	9	1
ベナン	3	1	10	-
ペラ	12	1	12	1
パハン	10	3	4	1
スランゴール	5	3	17	2
クアラルンプール	2	2	9	1
ブトラジャヤ	1	-	0	-
Nスンピラン	5	-	3	-
マラッカ	4	-	2	-
ジョホール	21	6	5	2
ラブアン	1	-	0	-
計	86	21	80	12

BNに関しては、半島部で86議席を獲得し、そのうちの21議席が得票率5%未満で勝っています。他方で、PRを見ると、得票率5%未満で勝っている選挙区は12区しかありません。

つまり、PRはわりとしっかり勝っていて、BNは危うく勝ったということです。危うく勝ったことと、1票の重さが重い選挙区において勝ったことで、BNが獲得議席数を稼いだと考えられると思います。

■ 選挙区のマレー人有権者比率は 選挙結果にどのような影響をもたらしたか

資料4は、選挙区におけるマレー人有権者の比率に従って166の選挙区を五つに分けたものです。ここからも明らかなのは、マレー人有権者の比率が「80%以上」、「60%以上80%未満」の二つのカテゴリーでBNの得票率が50%を上回っていることです。半島部ではマレー人有権者比率が「60%以上80%未満」、「80%以上」という特徴をもつ選挙区の数が多いことがあって、BNはより多くの議席を獲得することができました。

他方でPRの得票率を見ると、マレー人有権者比率

資料4 マレー人有権者比率と選挙結果(2013年選挙)

	BN(国民戦線)		PR(人民協約)		議席数 合計
	議席数	得票率	議席数	得票率	
80%以上	31	52.4%	13	46.3%	44
60%以上80%未満	32	53.5%	10	46.1%	42
40%以上60%未満	21	45.4%	27	53.2%	48
20%以上40%未満	2	38.0%	17	61.7%	19
20%未満	0	19.9%	13	79.7%	13

資料5 マレー人有権者比率と選挙結果(2008年選挙)

	BN(国民戦線)		PR(人民協約)		議席数 合計
	議席数	得票率	議席数	得票率	
80%以上	31	52.4%	13	46.3%	44
60%以上80%未満	32	53.5%	10	46.1%	42
40%以上60%未満	21	45.4%	27	53.2%	48
20%以上40%未満	2	38.0%	17	61.7%	19
20%未満	0	19.9%	13	79.7%	13

が「20%未満」、「20%以上40%未満」の選挙区で、じつに79.7%、61.7%と圧倒的な得票率を誇っています。直感的な話にすぎないのですが、ざっくり言えば、BNはより多くマレー人に支えられ、PRはより多く非マレー人に支えられたと言えそうな結果になっています。

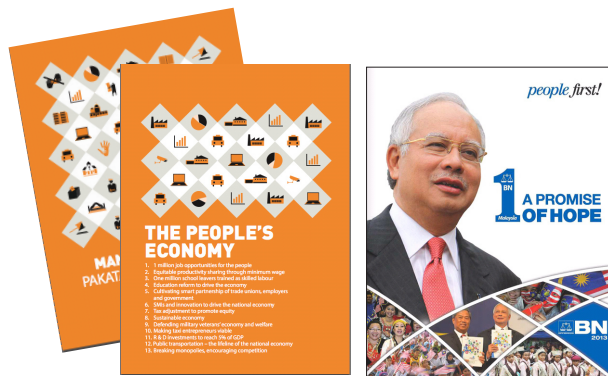
資料5は、2008年選挙でのマレー人有権者の比率と議席数、得票率をまとめたものです。興味深いと思ったのは、マレー人が多数を占める選挙区におけるBNの得票率は、前回の選挙と今回の選挙とでそれほど変わらないことです。つまり、マレー人が圧倒的に多い選挙区においては、BNに対する投票者の行動はそれほど変わらなかった可能性があると言えます。

先ほどお話ししたように、有権者数が少ない選挙区でBNがより多く勝ちました。また、マレー人がより多い選挙区で多く勝ちました。マレー人がより多い選挙区は有権者数が少ない選挙区が多く、このような選挙区でBNが勝ちました。BNが勝ったと言っても、その中身を見てみるとUMNO(統一マレー人国民組織)が勝ったということです。

今回の選挙において、各政党が何名の立候補者を立てて、何か所で当選したのかをまとめました(資料6)。「増減」の項は、今回の選挙で勝った数から、前回の選挙の当選数を引いたものです。UMNOは8議席増、MCA(マレーシア華人協会)が7議席減、MIC(マレーシア・インド人会議)は変わらず、GERAKAN(マレー

資料6 立候補者数と当選者数、増減

	立候補	当選	増減 (GE13- GE12)	得票率	増減 (GE13- GE12)
Barisan Nasional					
UMNO	107	74	8	52.5%	-1.7%
MCA	38	8	-7	36.4%	-71.0%
MIC	8	3	0	47.3%	2.2%
Gerakan	11	1	-1	33.9%	-4.9%
PPP	1	0	0	13.0%	-23.9%
Pakatan Rakyat					
DAP	36	31	7	66.6%	7.0%
PAS	64	21	-2	47.7%	1.3%
PKR	66	28	-3	50.3%	3.1%



資料7 BNのマニフェスト〈右〉とPRのマニフェスト

シア人民運動党)が1議席減、PPP(人民進歩党)は0議席のままなので変わらずです。

翻ってPRを見ると、DAP(人民行動党)が7議席増、PAS(汎マレーシア・イスラーム党)が2議席減、PKR(人民公正党)が3議席減となりました。その結果として、現在の政府のなかには華人代表としてMCAとGERAKANの代表が現在のところ入っていない状態になっています。

■ 何が選挙の争点だったのか

——教育、宗教、福祉、インフラ整備を比較する

このような特徴の選挙は何を争点として闘われたのかを見るために、二つの政党連合のマニフェストを比較したいと思います。資料7の左側の二つがPRのマニフェストで、右側のナジブ・ラザク(Najib Razak)首相の顔が出ているものがBNのマニフェストです。これを見ると、いずれも使っている言葉が同じです。どちらのマニフェストにも、「PEOPLE」と「HARAPAN(HOPE)」、つまり「人民」と「希望」が入っています。

では、中身はどうか(資料8)。たとえば「教育／宗教」のカテゴリーを比べると、ほとんど同じです。BNが「マレー語能力および英語能力の向上」、「国民型学校および宗教学校への補助金継続」で、PRのマニフェストは「国民型学校および宗教学校への補助金」でした。宗教に関しても、「イスラムの国教としての地位の支持と、宗教の自由の尊重」と、どちらもほとんど同じです。結局、変わりがないということもあったのか、私が見たチェラマにおいては、教育と宗教の問題はそれほど大きな争点にはなっていませんでした。

福祉・社会支出の分野もかなり似かよっています。たとえば「低コスト住宅建設」、「生活費上昇に見合う手当」、「基礎医療サービス」の提供があります。BNは、これに加えて「Kedai Rakyat 1Malaysia」があります。

これは「1マレーシア(1Malaysia)」というナジブ首相のスローガンをくっつけた日用品雑貨のお店の名前前で、このお店を通じて低コストな日用品を提供すると訴えています。

他方でPRのマニフェストには、「電気・水道・ガス代引下げ」、「高速道路無料化」、「車両税廃止と車価格引き下げ」が書いてあります。私はこれを初めに読んだときにばらまきかと思ったのですが、この根底には大きな思想レベルの転換が用意されています。これについてはあとで説明します。

インフラ事業と成長戦略について見ると、PRとBNの違いが明らかになってきます。たとえば、都市交通網の整備が必要だということは双方とも論じていますが、PRのマニフェストでは、「ただし、敷設事業の受注は汚職にまみれていないこと、そしてコスト高でないこと」が条件だと言っています。BNのマニフェストは「道路・高速道路建設、水道、電気、通信インフラ整備」という従来型の公共事業によるインフラ整備を前面に出していますが、このような言葉遣いはPRのマニフェストには見当たりませんでした。

成長戦略は、PRのマニフェストにはほとんどないというか、かなり手薄になっています。「R&D(研究開発)投資をGDP(国内総生産)の5%まで引き上げる」というフレーズがあることと、これは驚いたのですが「GLCs(政府関連企業)の民営化によるブミプトラ(Bumiputera、原住民)企業の育成」というフレーズがあるくらいでした。

他方でBNのマニフェストでは、現在ナジブ首相が過去3年間ずっと行ってきた「高付加価値セクターへの公共投資」を続けることと、法人税を引き下げてビジネス・フレンドリーな環境をつくるということを言っています。それに加えて「GLCsの民営化によるブミプトラ企業家の育成」が書いてあります。

資料8 カテゴリー別にみるマニフェストの差

教育／宗教	
BN	PR
●マレー語能力および英語能力の向上 ●国民型学校および宗教学校への補助金継続 ●イスラームの国教としての地位の支持と、宗教の自由の尊重	●マレー語能力および英語能力の向上 ●国民型学校および宗教学校への補助金継続 ●イスラームの国教としての地位の支持と、宗教の自由の尊重
福祉・社会分野	
BN	PR
●低コスト住宅建設 ●生活費上昇に見合う手当(BR1M) ●基礎医療サービス ◆低コスト日用品の提供 (Kedai Rakyat 1 Malaysia)	●低コスト住宅建設 ●生活費上昇に見合う手当 ●基礎医療サービス ◆電気・水道・ガス代引下げ ◆高速道路無料化 ◆車両税廃止と車価格引き下げ
インフラ事業	
BN	PR
●都市交通網の整備……MRT、LRTの新設・延長 ◆道路・高速道路建設、水道、電気、通信インフラ整備	●都市交通網の整備……MRT整備 - ただし、敷設事業の受注は、汚職・コスト高でないこと
成長戦略	
BN	PR
◆低高付加価値セクターへの公共投資 ◆法人税引き下げ ●GLCsの民営化によるブミプトラ企業家の育成	●低GLCsの民営化によるブミプトラ企業の育成 ◆R&D投資をGDPの5%に

資料9 PRマニフェストの肝「既得権益／権力の腐敗を打破する！」

ガバナンスの透明化・自由化	
●司法制度・メディア・汚職対策局・選挙管理委員会 ●政治制度の自由化	
労働政策	
●外国人労働者数削減と雇用創出 ●RM1,100の最低賃金	
経済の独占状態の解消	
●BNから許認可を受けた独立系発電事業者／水道管理会社／通信事業者(ASTRO)による独占状態の打破 ●BNから許認可を受けたタクシー会社の廃止 ●国営石油会社(PETRONAS)の利潤の国民への還元	

PRの選挙活動とマニフェストの肝は 既得権益・権力の腐敗の打破

先ほど思想レベルでの違いがあるという話をしましたが、それをまとめたのが資料9です。PRのマニフェストは、一見すると「電気・水道・ガス代引下げ」が気になりますが、そこが肝ではなく、逆にそれをどのように可能にするかというところにPRの今回のマニフェストと選挙活動の肝がありました。

それは一言で言ってしまうと「既得権益、権力の腐敗を打破する」というもので、①ガバナンスの透明化・自由化、②労働政策の推進、③経済の独占状態の解消

という三つが書いてありました。この最後の部分は重要だと私は見ましたし、実際にチェラマに行っても、ここが強調されていました。

とくに主張されていたのが、BNの政府から許認可を受けた独立系発電事業者がいて、その人たちが電気をテナガ・ナショナル(Tenaga Nasional)という国営電力会社に高く売っているために電気代が高くなっている。「これは許せない。BNのクローニー(取り巻き)をぶつつぶせ」ということです。

水道管理会社も、スランゴール州ですずっと問題になっていました。BNから許認可を受けた会社で、こ

の会社がまずい管理をしているのでスランゴール州でしばしば水が止まるため、それを「ぶつつぶせ」ということです。

通信事業者では、たとえばASTRO(アストロ)が名指しされていました。衛星放送の会社です。ASTROの受信料が諸外国に比べて異様に高く、これもASTROがBNの取り巻き企業として独占状態をもっているからというわけです。そこで「これを打破せよ」という主張をしています。

BNから許認可を受けたタクシー会社を廃止せよという主張もありました。タクシーの運転手は、タクシーを借りるレンタル料をタクシー会社に毎日払わなければなりません。タクシー会社は何もしなくてもお金が入ります。運転手は毎日およそ20リンギットをタクシー会社に払わなければならないという状態があり、中間搾取のようなタクシー会社をなくせということです。タクシー会社はほとんどがUMNOの取り巻きだというのがPR支持者の理解です。

このようなマニフェストが出たうえで、いったい選挙キャンペーンの現場ではどのようなことが主に言われていたかを見てきました。スランゴール州とクアラルンプールを中心に、農村部と郊外の住宅地、都市部、いろいろなところに行き見てきました。

■ BNが有権者に訴えた選挙演説の重心 ——インフラ整備と福祉の実績、民族間調和

BNが訴えてきたことは主に4点です(資料10)。いくつものBNのチェラマに行っても、だいたい共通して出てきたのが以下の4点でした。

まず「経済成長・インフラ開発の実績が我々にはあるのだ」ということです。他方で、PR政府は開発をもたすことができない。

2点目としては、「とくにナジブ政権以降、我々は国民の福祉のための分配をずいぶんしてきた」ということです。資料10にある「BR1M」というのは、「Bantuan Rakyat 1Malaysia」の略で、世帯所得3,000リンギット以下の世帯に500リンギット、それから1,000リンギット、そしてさらにこの選挙のあとには、1,200リンギットあげるという政策です。これに対して、「PRのスランゴール州政府は『シングル・マザー手当を支給する』と言っているけれども、していないじゃないか」と攻撃する。

3点目として、「民族間の調和を我々は実現してきた」と言います。「しかし、PRはイスラーム刑法の導入をめぐるDAPとPASがまだ対立しているのではな

資料10 BNは有権者に何を訴えたか？ 選挙演説の重心

経済成長・インフラ開発の実績(⇔約束を守らないPR州政府)

国民の福祉のための分配(BR1Mなど)(⇔約束の水道無料化・シングルマザー手当を支給しないPR州政府)

民族間の調和
(⇔イスラーム刑法導入をめぐるDAPとPASの対立)

アンワルは首相失格……財務大臣時代の逸話(+LGBT)

いか」というわけです。

最後に、意外に時間をかけてじっくりと説得されていたのが、「アンワル・イブラヒム(Anwar Ibrahim)は首相にはなれない」ということでした。「アジア通貨危機のときに、マレーシアを危うく第二のインドネシアにするところだった」とか、「アンワルが首相になれば、レズビアンやゲイなど(LGBT)を容認する社会になってしまうぞ」ということが語られていました。

■ PRが有権者に訴えた選挙演説の重心 ——PASとDAPの協力関係、経済独占の解消

他方でPRはどうだったか。主に2点ありました。まず、「PASとDAPは協力できない」というBNの言説を否定することに時間をかけていました。資料11-①に二つ画像を示しています。左側の画像はMCA党首のチュア・ソイレック(Chua Soi Lek)が「PRが連邦政権をとったら酒が飲めなくなるぞ」とか「豚肉が食べられなくなるぞ」とか「手を切られるぞ」と言って華人の有権者を脅して洗脳しているようすを示すアニメ的一幕で、これは嘘だという主張です。

資料11-①の右側の画像はPKRとPASのチェラマで出てきた画像ですが、「BNではイスラム教徒の候補者は130人しかいない。他方でPRはイスラム教徒の候補者が142人もいる。だから我々のほうがよりイスラム的なのだ」と言っています。「『DAPがいるからPASはイスラム色を薄めなければいけない』と言われているけれども、そんなことはないのだ」とPRのチェラマで主張していました。

もう1点は、一言で言ってしまうと、「経済の独占状態を解消せよ」です。とにかく物価・生活費の上昇にまず注意が向けられます。資料11-②の三つの画像のうち、左の画像の左側に「TURUNKAN HARGA PETROL」とあります。これは「ガソリン価格を下げる」と言っています。

真ん中の画像は、マレーシアでポピュラーなケチャップの値段がこれまでいかに上がってきたかを示しています。「この選挙でもBNが勝てばさらに上



資料11-① PRが訴えた内容(1) PASとDAPの協力



資料11-② PRが訴えた内容(2) 物価上昇と富の集中、汚職

がるんだ」と言っています。ケチャップの値段とBN政権がどう関係あるのかはわかりませんが、少なくともこう言うことで、「今度の選挙はみなさんの生活に直接関係があるのですよ」と言っているわけです。

そう言ったうえで、一部の権力者に富が集中していることも、かなり時間をかけてじっくり解説しています。そのなかでもっとも集中砲火を浴びていたのが、ナジブ首相夫人のロスマ・マンソル (Rosmah Mansor) です。資料11-②の右の画像には、「ロスマが外国でショッピングをするときのコストが32万リンギットだ」とあります。「32万リンギットあればインスタント・ラーメンが64万袋買える」とか「コメ10キログラムが9,142袋買える」と書かれています。このように書くことで、いかに政権のエリートに富が集中しているか、我々とはまったくかけ離れた生活をしているかという話をします。

これと並行して、UMNOのクローニー、たとえばサイド・モクタル・アルブハリ (Syed Mokhtar Al-Bukhary) の話もよく出てきました。このような人たちに権力や富が集中していると言ったうえで、「この人たちは汚職にまみれていて、私たちの税金を盗んでいる」と言います。それを説得する材料として、前の女性家族コミュニティ発展大臣であるシャリザ・

アブドゥル・ジャリル (Shahrizat Abdul Jalil) の夫が関わっていたとされるナショナル・フィードロット (National Feedlot) の疑惑とか、ナジブ首相による潜水艦購入とその仲介料疑惑など、さまざまな汚職の疑惑があるにもかかわらず、汚職対策局が何もしないということを滔々と語ります。

そして最終的には『マハティーズム』を断ち切る必要があるのだ」という主張がされます。だいたい大きな集会は「マハティーズム」(マハティール主義)という言葉が出て終わっていたような印象でした。

■ BNとPRの主張のどのあたりに有権者は反応していたのか

このようなことをBNとPRが主張したときに、有権者はどのあたりに反応しているのかについて、できるだけいろいろな人と話すことでつかみ取ろうと考えて、いろいろしてみました。一般化することはできないかもしれませんが、以下のような傾向があったと思います。

まず、農村部と半農村部のマレー人は、財のプロバイダーとしての政府を重視しています。資料12の左上の画像は、ナジブが無償で建ててくれた家だそうです。こういうものをわざわざ見せることで、現在のBN政権はプロバイダーとしてすぐれていると言うの



資料12 フィールドワークに見る有権者の反応
上段左……ナジブの建てた家 上段右……ヤギやウシをふるまう 下段……セプテーで行なわれたチェラマ

です。それから、DAPは「恐い(takut)」と言ったマレー人が2人くらいいました。その言説は現在でも強いのかなと思います。

ゴンバック (Gombak) で何人かの公務員と建設業のマレー人にお会いしたのですが、この人たちは明らかに、「PR政府は何もインフラ事業をしないではないか。お金が落ちてこない」とはっきりとおっしゃいました。資料12の右上の画像は、ヤギ5頭と牛2頭を屠殺して地域の有権者にふるまっている会のようです。「この会にだれがお金を出しているのですか」と聞くと、地元ではけっこう有名な建設業者ということなので、今回の選挙はおそらく建設セクターから相当の献金がBNに流れているのだろーと思います。

他方で労働者、たとえばタクシー・ドライバーは、先ほどお話ししましたが、「操業許可をBNからもらった社長が何もせずに儲けて、我々は毎日わずかな稼ぎしかない」と言っています。

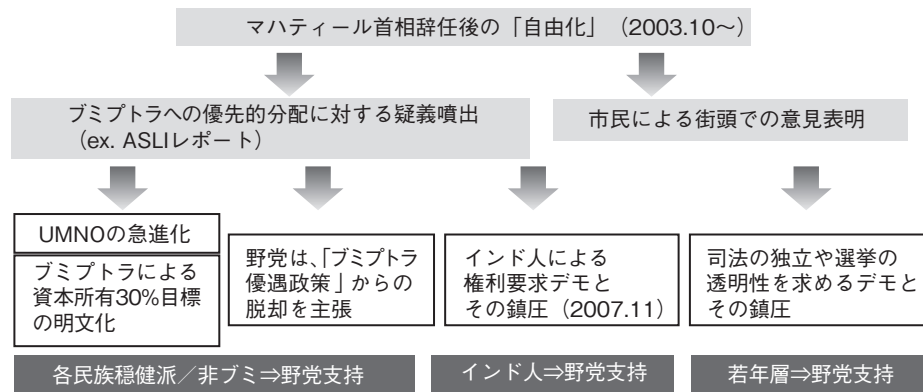
それから華人です。資料12の下画像は、セプテー (Seputeh) で行なわれたチェラマです。4,000人くらい来ていたと思います。なんの変哲もない住宅地ですが、たくさんの人が来ていて、99%が華人でした。この人たちがワッと盛り上がるのは、汚職の話とか税金の無駄遣いの話です。それ以外にも「5月5日に政府を変えるぞ、オーツ」と盛り上がることもありましたが、争点という観点から見ると、汚職や税金の無駄遣いにもっとも反応していました。

■ 2013年選挙の争点は、民族問題ではなく 二つの開発・福祉体制にあった

このように見ると、今回の選挙は、先ほどマレー人がBNを支えて、華人がPRを支えたように見えてお話ししましたが、投票行動はかならずしも民族的な利益に基づいたものではなかったと見えます。

ざっくり言ってしまえば、今回の選挙は、二つの開発体制をめぐる闘いだったと思います。一方では、BNがこれまで推進してきた「政府による公共投資、インフラ、手当、安定の提供を通じて高所得国家入りする」というタイプの開発のモデルがある。他方でPRは、これまでそのようにBNがしてきたけれども、そのなかで「BN政権を取り巻く既得権益とそれを守る制度ができた。これを一回ぶち壊さないと富の再分配ができないし、市場が競争力を持ってない。それによって韓国や台湾のように先進国入りしたい」と言っていたのを2回くらいチェラマで聞きました。他方で、民族問題の扱いはチェラマでは大々的にはされていなかったというのが、少なくともクアラルンプールやスランゴール州における観察で得た印象です。

たとえば、マレー人公務員や建設業者が「PRが政権をとったらマレー人の特別の地位が脅かされる」と個人的にポロッと言うのですが、選挙活動ではそういうことは大々的には言いません。あるチェラマでPAS党員が「華人ばかり金持ちになっているじゃないか」と言ったのですが、その直後にチラッと私の顔



資料13 GE12の背景

資料14 ナジブ政権の対応と失敗

中道ポジションの取り返し

- 1 Malaysia (多様性をとまう統一)
- Global Movement of Moderate

New Economic Model (NEM) (2010.3)

- 2020年までに先進国入り／所得倍増(23,700RM ⇒ 48,000RM)
- 「市場友好的で非差別的」な優遇政策 = ブミプトラではなく、下層40%の能力構築
- 規制緩和による投資拡大と民間の活性化⇒自動車・医療・金融・観光など27業種で、自由化

政治の自由化

- ISA・非常事態宣言撤廃
- 大学・大学カレッジ法、印刷機・出版物法改正
- 平和集会法制定

最低賃金導入

- 月額RM900(家庭内労働者や試用期間の者をのぞく)

を見て「やばい」という顔をしていたので、PRもBNも民族のことは言わないようにしようという感じになっているのかなという印象をもちました。

DAPのチェラマで「私はDAP党员ではありません」という人が突然登場して、BN政府は華語で教えられる国民型学校にいかに予算をつけていないかという話をしたこともあります。ですから、今回は少なくとも大々的に民族の問題は取り上げられていなかったというのが私の印象です。

■ マハティールの雰囲気としての「自由化」がもたらした2008年の選挙結果

少し時間軸を延ばして、今回の選挙について捉えてみます(資料13)。前回2008年の選挙は、いったいどうしてBNが初めて3分の2の議席がとれない事態になったのかと考えたときに、マハティール首相辞任後の「自由化」——これは制度的には何も自由化していなかったのがカッコつきですが、雰囲気として自由化したことが、一つの契機になったのかなと思います。

雰囲気的自由化のなかで、一方ではブミプトラへの優先的分配に対する疑義が噴出しました。これに対してUMNOが反応して急進化して、これを見た非ブ

ミプトラの穏健派、それから一部マレー人の穏健派がBNに嫌気がさして、PR支持に回ったということが一つの動きとしてありました。

雰囲気の自由化のもう一つの帰結は、市民が街頭で意見表明をするようになったことです。その一つは、インド人のHindraf(ヒンドゥー権利行動隊／ヒンドラフ)による権利要求デモです。これを当局が弾圧したことで、インド人がPR支持に回りました。

司法の独立や選挙の透明性を求めるデモも行なわれ、それを当局が弾圧したので、とりわけデモに中心に関わっていた若年層がPR支持に回った。これが、おそらく前回の選挙で起こったことだったのだらうと思います。

■ なし崩しになって失敗に終わったナジブ政権の改革

このような状況に対して、ナジブはすべての問題に対応しようと試みました(資料14)。まずは急進的になってしまったUMNOを中道ポジションに戻そうとしました。そのため、「多様性をとまう統一」という意味を込めた「1 マレーシア」を、彼の政権のスローガンに掲げました。

資料15 なし崩しになった改革とエスタブリッシュメントの暴露

なし崩しになった改革 ● NEM ● MRT プロジェクトのブミプトラ割当継続 ● UMNOの取り巻き企業によるNEM下のプロジェクト(ETP)受注 ● 政治の自由化も中途半端 ● 労働賃金導入は、一部形骸化		権力者の可視化 ● UMNO取り巻き ● 経営者 ⇒労働者／非ブミプトラの離反			
	1分位	2分位	3分位	4分位	5分位
マレーシア	51.5%	8.7%	13.7%	21.6%	4.5%
タイ	47.2%	10.3%	14.5%	21.4%	6.7%
フィリピン	49.7%	9.4%	13.9%	21.0%	6.0%

資料16 制度不信とPRによる代替案の提示

● 汚職対策局による野党州議会議員秘書取り調べと「自殺」 ● NFC(ナショナル・フィードロット社)による公的資金乱用・背任疑惑 ● 潜水艦「仲介料」疑惑	
PR州政府によるガバナンス ● ペナン州行政評議会委員の資産公開 ● スランゴール州情報公開法	PR選挙戦略 ● 富の不平等な分配／権力の集中／ ● 腐敗した制度をうまくパッケージ化

もう一つは、New Economic Modelです。所得を倍増して2020年までに先進国入りするための青写真ですが、そのなかで「市場友好的で非差別的な優遇政策」をすと言いました。つまり、ブミプトラではなく下層40%の能力構築をすと言いました。これによってナジブの支持率は一時69%まで上がりました。

さらに、畳みかけるように、とくに若年層が問題視していた政治の自由化や選挙制度改革にも乗り出しました。それに加えて、前回選挙でPRが初めてマニフェストに入れた最低賃金も、自分の政権のイニシアチブで導入しました。

しかし、一連の改革を行ってなんとか失地回復しようとしたのですが、結局この改革はなし崩しになってしまいます。たとえばNew Economic Modelは、ふたを開けてみると、さまざまなプロジェクトがいわゆるUMNOの取り巻き企業によって受注されていることが明らかになりました。

労働賃金も月額900リンギットと決めるには決めたのですが、まだ実施していない企業も多数あります。また、その900リンギットとはいったいなんなのか、ボーナスや手当も含めた900リンギットなのかよくわかりません。このようなやりとりを通じて、やはりこの政権は労働者に対して富の分配をするポーズを見せても何もしていないことが明らかになっていきます。さらに、政治の自由化や選挙制度改革もするにはしたのですが中途半端で、逆に選挙管理委員会の

独立性への疑義が生じる事態になってしまいます(資料15)。

これらによって、なまじ注目を集めて改革をしてうまくいかなかったがために、結局この政権をコントロールしている真の権力者がだれなのかが可視化されてしまいました。それはUMNOの取り巻きであったり、ビッグ・ビジネスであったりしたわけです。そういうことを見た労働者や非ブミプトラが離反したことが挙げられると思います。

■ 制度への不信とPRによる代替案の提示でギリギリまで追いつめられたBN

それに加えて、制度不信も起こりました(資料16)。先ほど選挙管理委員会に対する疑義があったことを話しましたが、それに加えて、政権の閣僚による汚職疑惑、そしてそれにきちんと汚職対策局が対応していないという事態が起こりました。

他方でPRは、透明性を高める施策をバンバン打っていきます。たとえばペナン州では州政府の閣僚の資産公開をしました。

それから、これは伊賀司さんが詳しいのですが、スランゴール州でも情報公開法を制定しました。さらにPRは、富の不平等な分配と権力の集中と腐敗した制度という問題をうまくパッケージ化して有権者に見せることをしました。

結局、初めに概観したように、ギリギリでBNが勝つというところまで追いつめられたのが今回の選挙

だったのではないかと思います。

■ 頓挫せざるをえない状況にある ナジブ政権の構造改革のゆくえ

これまでの開発体制のあり方に由来する汚職、癒着、不平等への不満が表明されたのが、今回の総選挙だったと私は見ています。

これから先、仮にナジブが首相で居続けられるのであれば、ナジブ政権が失地回復をめざすならば構造改革が不可欠です。構造改革の不徹底を問題視した有権者が離反した側面が強いからです。しかし、おそらく構造改革は進まないと思います。というのは、先ほどヤギ5頭と牛2頭の話をしたましたが、今回の選挙においては、政権に近い企業家から相当な財政支援が入っているという話があります。お金をもらえば当然それに報酬を与えなければならないので、今後もレント配分を続けざるをえないでしょう。

また、今回の選挙は不正にまみれていたということで、BN政権にも選挙管理委員会にも、既存の制度にも幻滅しているPR支持者が数多くいます。おそらくこの人たちは、BN支持には戻らないと思われます。彼らをもう一度BNによび戻すために構造改革を進めて現在のBN支持者の離反を生めば、BNはよけいにボロボロになってしまうと考えるはずです。ですから、おそらく構造改革は完全に頓挫すると思います。

その結果として、1993年に日本で起こったことと似ていると思いますが、沈む船から党員が脱出してBNは弱体化します。いわば日本の55年体制ならぬマレーシアの57年体制の崩壊が起こりうると思います。

■ 政党政治に絡めとられつつある マレーシアの日常の暮らし

最後に、山本博之さんが趣旨説明で提起された三つの問題のうち、二つにお答えすることができるかと思います。まず、「二大政党制は定着するのか」ということです。政策が異なる二政党、もしくは二政党連合がそれぞれ強い勢力をもって政権をめぐる競争して、政権交代もありうるというのが二大政党制だと思うのですが、現在お話ししたことを考えれば、連邦レベルでの政権交代は今後ありうると思います。これは二大政党制とよんでも遜色がないのではないかと思います。そういうことで、私の一つめの質問に対する答えはイエスです。

二つめの連邦制に関しては、私はまったく今回の発表では関知しませんでしたので、答えられません。

三つめの問い、「政治文化は変化していくのか」につ

いてですが、私は今回、マレーシアの政治文化はだいぶ変わったと思います。大きく二つのポイントがあった気がします。

一つは、社会が政治化してしまった、もしくは政党政治レベルの亀裂が社会にしみこんでいくということが起こっているような気がします。スランゴール州のクラナジャヤ (Kelana Jaya) で、投票日の前日にPRが大々的な集会をしました。そのなかで下院議員のハンナ・ヨウ (Hanna Yeoh Tseow Suan) が次のようなエピソードを話しました。「小学校で児童が『あなたのお母さんはBN？ PR？』と聞く。『PRだよ』と言うと『イエーイ』とみんなでハイファイブをする。『BNだよ』と言うと『もう口をきかない』って言うんです」というエピソードです。

こういうことをハンナ・ヨウがチェラマで堂々と話しているのを見て、ここまで来てしまったのかと思いました。社会レベルの、あるいは日々の生活が政党政治に絡めとられる事態が現在マレーシアで起こっているのかなと感じました。ここまでのことは、これまでなかったのではないかと思います。

■ 公共空間の分断・分裂が 顕著に感じられた2013年選挙

もう一つは、山本博之さんからもお話がありましたし、伊賀司さんがお話しくださると思うのですが、「分断された公共空間」が決定的に見えました。

先ほどから汚職の話をしていますが、州政府側もやはり汚職疑惑があり、ペナン州でもスランゴール州でもそのような疑惑はありました。しかし、PRの支持者たちに「(PR州政権の) スランゴール州にこういう疑惑があるとBNが言っているよね」と言うと、PR支持者は、「そんな関係ないよ、BN側が勝手に言っているだけだ」と言って聞きません。

他方でBNの支持者たちは、ナジブの潜水艦購入疑惑のことなんてまったく口にも出しません。このようなかたちで、同じ国にいながら、まったく違うニュースを扱い、読んでいる空間がパラレル・ワールドのように存在している状況になっているという感じがしました。

「分断」というか「分裂」という文字がなんとなくもやもやと出てきてしまった選挙活動の視察となりました。